

保土ヶ谷高校シックスクール裁判 を支援する会 規約

- 1 会の名称
保土ヶ谷高校シックスクール裁判を支援する会
- 2 会の目的
保土ヶ谷高校シックスクール裁判勝利のために必要な支援を行なう。
- 3 会の設立
2010年3月30日
- 4 会員
会員は会の目的に賛同し、会費を納入した個人とする。
- 5 会費
年間1口2,000円とする。
- 6 会の構成
 - ・会の代表を置く。
 - ・会には世話人を置き、世話人の中から若干名の世話人事務局員を選出する。
 - ・世話人の打ち合わせには原告も参加するものとする。
 - ・会の会計・名簿管理、広報など必要な役割は世話人事務局が行なう。
- 7 代表者の選出方法
代表は、世話人会で協議して選出する。
- 8 会の運営
 - ・会の運営は、会費およびカンパで行う。
 - ・会の運営は世話人事務局がこれを行う。
- 9 会の活動
 - ・裁判の意義を広め、傍聴等裁判支援の活動を行う。
 - ・裁判の状況を中心にニュースを発行し、会員に伝える。
 - ・必要に応じて集会や学習会などを行う。
 - ・裁判へ財政支援を行う。

<会費等振込先>

郵便振替口座 00220-1-84845
口座名 保土ヶ谷高校シックスクール裁判を
支援する会

9月7日に第2回口頭弁論が行われました。

今回、県側は、工事により有機化合物が放散されていたのは音楽教室と書道教室だけであり、柳沼先生の関わる美術室は対象外であるという書面を提出しました。これは、美術室やその周辺でも異臭がしていた事実を隠蔽し、事実を歪曲する主張です。裁判は全面对決になってきました。

**ぜひ「保土ヶ谷高校シックスクール裁判」を
傍聴してください！**

次回裁判

11月4日(木) 13:10開始

横浜地方裁判所 502号法廷

終了後、報告集会を行います。

<横浜地方裁判所>

JR京浜東北線関内駅から徒歩10分
みなとみらい線日本大通り駅から徒歩1分



*患者の健康に配慮し、香水・整髪料等は
控えていただくようお願いいたします。

保土ヶ谷高校 シックスクール裁判 を支援する会

へのお誘い



保土ヶ谷高校シックスクール裁判
を支援する会

県 立保土ヶ谷高校元教諭・柳沼先生（現在は横浜南陵高校勤務）は、2010年3月30日、神奈川県に対して、「保土ヶ谷高校シックスクール裁判（通称）」を横浜地裁に提訴しました。柳沼先生は、保土ヶ谷高校雨漏り防水工事が行なわれたとき、美術科教諭として勤務していました。当該の音楽室の隣にある美術室で有害な有機溶剤の暴露を受け、体調を崩しながら、職員の代表として工事関係の交渉を行なっていました。工事そのもののずさんさ、工事終了後の対応、生徒や職員の健康より問題の発覚を抑えることを優先する、県教育委員会の姿勢に疑問を抱き、「教育現場で二度と同じことを繰り返してはいけない」と提訴を決意しました。



2004年9月から10月にかけて、音楽室他2教室の雨漏り防水工事が行なわれました。そのとき使用された有機溶剤は、26種類500Kg以上と大量なものでした。その後、天井から漏れ出した有機溶剤により、多くの生徒や教師が頭痛やのどの痛みなどの体調不良を訴え、深刻な健康被害を受けた人も少なくはありません。この問題は、2005年3月と6月に県議会、同年5月には衆議院で、また6月には横浜市議会でも取り上げられ、生徒、保護者、教師の抗議もあり、2005年7月から改修工事が行なわれました。

しかし、その後も有害な有機溶剤の暴露は続きました。生徒の健康問題については、県指定の医療機関で検診を行ないましたが、シックスクール症候群2名、経過観察2名という結果でした。しかし、実際にはもっと多くの生徒や職員が不調を訴えていました。柳沼先生も受診せざるを得ないような体調となり、自主的に病院で検診を受け、自律神経失調症、化学物質過敏症と診断されました。



化 学物質過敏症は、昨年10月に病名登録されたほどまだ一般的には認知度が低く、行政による救済制度も確立していません。発症の度合いに個人差も大きいことから、本人だけが苦しんでいるケースが多く、泣き寝入りをせざるを得ない状況です。しかし、本人にとってはその後の人生が大きく変わってしまうような重大なことなのです。柳沼先生は、ご自身の体験からそのことを実感し、他の苦しんでいる生徒や職員のためにも事実を明らかにすることが必要だと考えて提訴をする決意をしました。

みなさまには支援する会に入会をしていただき、ご支援をよろしくお願いいたします。



呼びかけ人

玉腰了三（化学物質問題市民研究会・化学物質過敏症発症者）

尾竹一男（建築事務所代表）

広田しのぶ

（化学物質過敏症支援センター事務局長）

高橋進（元県立高校教諭）

大和田章雄（県立横浜南陵高校教諭）

菊谷節夫（働くもののいのちと健康を守る神奈川県センター事務局長）

小林孝治（市民が創る政策調査会事務局長）

杉山典子

（生活クラブアトピーネットワーク代表）

みわ智恵美（港南区教育を語る会代表）

大和田幸子

（神奈川県立障害児学校教職員組合書記次長）